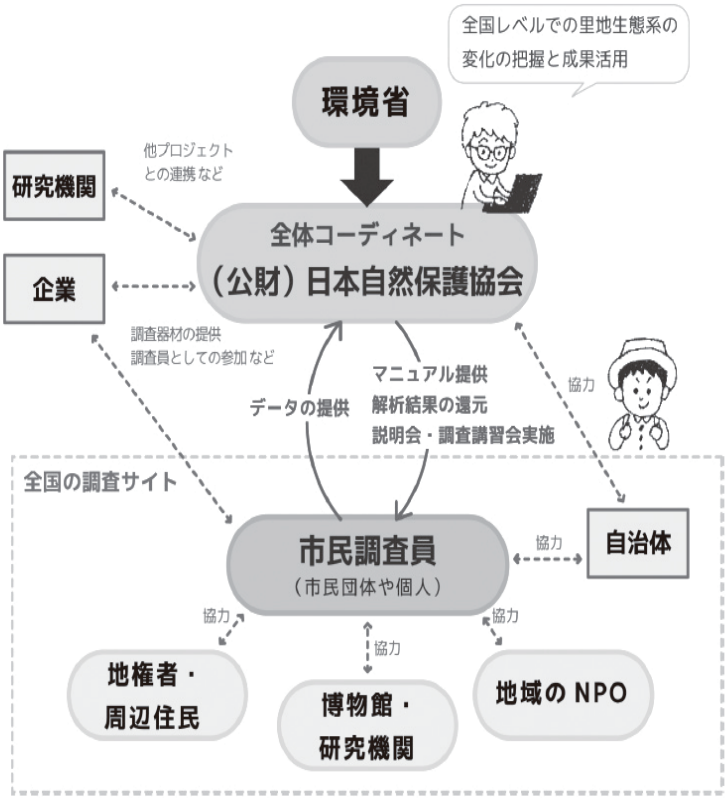
モニ1000報告 ――里地生態系の生物多様性の喪失が着実に進行！――

「モニ1000」って何？

その地域に生息する生き物や環境、そして、その生き物たちのつながりを保っていくために、自然の移り変わりを長期的に観察し記録する「モニタリング1000里地調査」が日本各地で行われています。通称「モニ1000」と呼ばれおり、2003年から生物多様性国家戦略に基づき始まったプロジェクトです。調査は地域のボランティア、ＮＰＯなどが主体となって行い、データや分析を環境省や日本自然保護協会が取りまとめています。

軽井沢サクラソウ会議も、2013年からこの活動に参加しています。



全国の種数・個体数の増減傾向がわかってきました！

2016年度の全国調査報告書が届きましたので内容を報告します。
（詳しくは、https://goo.gl/C2USpSをお読みください。）

全国の在来植物の種数が経年的に減少傾向にありました。蝶類の合計数が減少傾向でした。畑地や湿地を好む蝶の個体数の減少が見られました。

鳥類、蝶類、哺乳類については横ばい傾向でした。鳥類の合計数は増加していたものの、ウグイス、ヒヨドリ、メジロは減少していました。テンとノウサギの個体数が年間１割ほどで減少していました。逆に、イノシシ、ニホンジカの個体数は増加傾向で、カモシカの確認サイト数が増加していました。

ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヤマアカガエルの個体数が減少傾向でした。カヤネズミの生息面積の減少がみられましたが一部では保全対策が成果を上げているサイトも見られました。ため池の水質の変化が見られました。南方系の蝶類６種の分布はナガサキアゲハを除いて拡大しておらずカエル類の産卵時期も早まっていませんでした。

外来生物種数の増加

外来植物の種数が増加していました。ガビチョウ、アライグマの個体数増加や分布拡大が見られました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

この場を借りて、モニ1000調査に参加して頂いた軽井沢サクラソウ会議の皆さまにお礼申し上げます。また今年は、タリアセンの深沢紅子美術館と「野の花散歩」観察会を企画し、５月と７月に開催しました。次回は９月30日の予定です。サポーター募集中です。

今年のモニ1000調査も残す所、９、10月の２回となりました。お気軽に参加して、一緒に花を探しましょう。

[渡辺久義]